

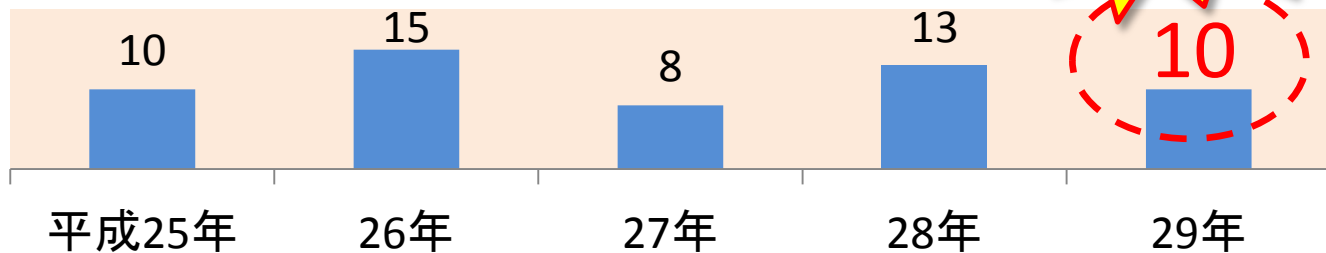
飲食店 など接客娯楽業の事業場の皆様へ 労働災害を防止しましょう！

王子労働基準監督署管内（北区内）の接客娯楽業の事業場における労働災害は、毎年10件前後発生しており、減少傾向となっております。

中でも発生件数の多い「墜落・転倒災害」、「火傷災害」、「切傷災害」について、災害の傾向と災害防止のポイントをまとめました。事業場における労働災害防止活動に活用してください。

労働災害発生状況

接客娯楽業における休業4日以上災害発生件数の推移（北区内）



労働者死傷病報告(H29年は9月末現在速報値)

*接客娯楽業における休業4日以上労働災害は、毎年10件前後発生していますが、平成28年は大きく増加し13件となりました。平成29年は9月末現在で既に10件と、前年を上回るペースで発生しています。

事故の型別発生ワースト5

平成25年以降発生56件の内訳

事故の型	件数	%
事業場内における墜落・転倒災害	16	29
高温物の取扱いによる火傷災害	14	25
切傷災害	8	14
激突災害・動作の反動災害・挟まれ災害	4	7
交通事故	3	5

事業場内を歩行中での階段等からの墜落災害や通路での転倒災害が約3割を占めています。

また、熱湯や食品油を使用している「火傷災害」も多く発生しています。

災害事例と対策は裏面に

安全の担当者＝「安全推進者」を配置しましょう

接客娯楽業は、労働安全衛生法令による安全管理者等の選任が義務付けられていない業種ですが、同種の業種における労働災害が増加していることから、事業場における安全管理活動を充実させることを目的に「労働安全衛生法施行令第2条第3号に掲げる業種における安全推進者の配置等に係るガイドライン」が示されています。

常時使用する労働者が10人以上の事業場については、1人以上、「安全推進者」の配置しましょう。

安全推進者の活動内容

- 1 職場環境及び作業方法の改善に関すること
- 2 労働者の安全意識の啓発及び安全教育に関すること

もっと詳しく！

安全衛生情報センター 安全推進者配置 ガイドライン

検索

このリーフレットの内容についてのお問合せは、王子労働基準監督署第二方面までお願いします。 ☎03 (6679) 0186

接客娯楽業における災害事例と災害防止のポイント

ストップ！ 墜落・転倒災害

災害事例

「滑り」、「つまづき」、「踏み外し」が転倒の典型的な発生で、両手荷物持ち、足元が暗い等、ちょっとしたことが原因でも発生します。墜落では、椅子を踏み台の代わりとする等、不適切な作業で発生しています。

災害防止対策のポイント

- 通路などの段差・凸凹・突起物・継ぎ目の解消
- 4S（整理・整頓・清掃・清潔）の徹底
- 照度確保、手すりやすべり止めの設置
- 危険箇所の表示など、危険の「見える化」
- 転倒防止のための安全な歩き方、作業方法励行
- 踏み台、脚立等の適正な使用

もっと詳しく！ STOP！ 転倒災害プロジェクト

全業種での労働災害でもっとも多い転倒災害。その増加抑止に向けたさまざまな対策を紹介しています。

STOP！ 転倒 

ストップ！ 火傷災害

災害事例

飲食店の厨房における食用油や熱湯による火傷災害は、高温物を自ら取扱う作業の他、その近傍での作業でも発生しています。傾向としては、若年齢層や経験期間が短い方の被災が目立っています。

災害防止対策のポイント

- 長靴、長エプロン、耐熱手袋の着用
- 作業者間の声掛けの励行
- 4S（整理・整頓・清掃・清潔）の徹底
- 水分補給と休憩

耐熱手袋の着用



長エプロンの着用

ストップ！ 切傷災害

災害事例

飲食店の厨房における包丁やナイフ等の手工具を使用する際の切傷災害が多く発生しています。そのほか、割れたガラス等を取り扱う際の災害も発生しています。

災害防止対策のポイント

- 刃物は落ち着いて慎重に取り扱う
- 4S（整理・整頓・清潔・清掃）の徹底
- 食器を扱うときは、ゴム手袋等、手指を保護するものを着用する
- 食品加工機械を使用する際は、刃物ガードを外さない（本来の使用方法を徹底する）

4S運動は安全の基本

上記の災害防止対策でも共通して掲げている4S（整理・整頓・清掃・清潔）は日常の活動として効果的です。職場全体で取り組ましましょう。

整理 必要な物と不要な物に分けて、不要な物は処分する。

整頓 必要な時に必要な物をすぐ出せるように、安全な状態で位置させること。

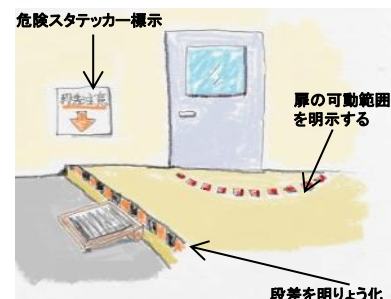
清掃 身の周りをきれいにし、衣服や作業場のゴミや汚れを取り除くこと。

清潔 整理・整頓・清掃を繰り返して、衛生面を確保し、快適な状態を実現・維持すること。

進めよう危険の「見える化」

職場の危険を全員で共有するには危険箇所を可視化（＝見える化）することが効果的です。

見える化の例



危険ステッカーの例

転倒・転落危険！



（注意事項）
スマホを見ながら、階段をおりないこと。
両手に荷物を持ったまま、急いで階段を降りないこと。